【授業科目】治療学Ⅳ（精神・行動障害）Biomedicine ＆ TherapewticsⅢ（Mental and behavioural disorders）

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
病院医師	２年次 後　期	必　修	1	１５	講義			可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／脳・神経系内科疾患、精神疾患、精神障害を生物学的・心理学的・社会的側面から捉え理解する。脳・神経系内科疾患、精神疾患、精神症状の理解、薬物療法を中心とした身体的治療、精神療法、環境療法、各検査まで、各論的内容について理解を深める。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜プリントを配布して行う。 課題に対するフィードバック方法／事前学習および事後学習により生じた疑問等について授業時間内に受け付け、公開にて対応する。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①脳・神経系障害による病態、機能障害、検査、治療の実際がわかる。 ②精神の障害による症状・治療及び生活への影響、精神医療の課題がわかる。 ③心理・精神障害時の諸検査の実際がわかる。
時間外学習に必要な内容・時間	第1～8回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。また、1年次に学習した「人体のしくみと働き」から該当する範囲を予習する。（各６０分）体のしくみと機能を理解していると、それらがどのような異常を起こし、どのようにして疾病が成り立つかを系統的に理解することができる。 第1～8回事後学習：講義内容について教科書や資料を参考に復習する。（各６０分）講義内容を理解し関連を自分で整理すると疾患への理解が深まり、専門科目の看護学へのつながりを理解することができる。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		担当予定	使用する教科書
	第１回：脳・神経系の役割と症状の起こるメカニズム	中西	成人看護学７（脳・神経）（医学書院）
	第２回：主な脳・神経内科疾患（病型分類を含む。特に認知症、てんかん）の病態、治療、経過、検査	中西	
	第３回：統合失調症（病型分類を含む）の病態、治療、経過	棚橋	精神看護学概論精神保健（メヂカルフレンド社）
	第４回：人格障害（病型分類を含む。特に境界性人格障害）の病態、治療、経過	棚橋	精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）
	第５回：精神・行動の障害、ストレス関連障害および身体表現性障害の病態、治療、経過	奥島	配布資料
	第６回：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群摂食障害の病態、治療、経過	奥島	
	第７回：生理的障害及び身体的要因に関連した行動・精神障害の主な検査 産褥に関連した精神・行動の障害 神経学的検査、心理検査（知能・人格・記名力・精神発達検査など）	竹中	
	第8回：精神療法・行動療法、心理学的アプローチ	竹中	
	※状況により順番、教員、内容等が変更になる場合があります。（掲示案内）		

評価方法 評価基準	試験（90%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。		
教科書	授業計画に記載 精神看護学概論精神保健（メヂカルフレンド社）、精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）については、２年次前学期講義「精神看護学概論」と同ﾃｷｽﾄのため、購入する必要なし	参考書等	講義の中で適宜紹介する。
学生への助言等	脳・神経系内科疾患は外科疾患との関連で理解するとよい。精神及び行動の障害について理解できない部分は図書館のＤＶＤ等を利用すると理解が深まると思われる。難しい言葉もたくさんあるが、興味をもって積極的に学習してほしい。 講義中の飲食・携帯電話の使用・教室の出入りは禁止とする。また、講義中は私語を慎むこと。		